

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.8 その 4

クリスマスとホグマニー (2)

佐伯 順弘 (岐阜県)

DAY3 (25DEC) ロンドン滞在

ロンドンのクリスマスゴーストタウン化を面白がって見に来たものの、逆に孤独感のカウンターパンチを食らったので、早々に散策を終え、よろよろとダウン寸前で The Generator に戻る。曇り空と小雨が心の中まで滲みてくる。



(St.Pancras 駅。いつもは多くの人々が・・・)

やっと帰還し、凍えた心を温めようとミディアムラテ 1.75GBP を飲む。日本文学的には啜ると書くところなのだが、ここは GB である。ロンドンである。啜る行為がマナーに反することくらい知っている。であるからして、決して啜ってはいない。凍えた心と身体にとって相対的に地獄のように熱いラテを注意深く、ゆっくりと摂取したのであった。某有名コーヒーショップとは比べ物にならないくらいにおいしい。

1300 ようやく、心もほぐれてきたところで、昼飯時であることに気づく。クリスマスランチを予約してあることも同時に思い出す。



(パッケージミールのクリスマスランチ)

ローストチキン、パイ、小エビのサラダ、ポテト、ペプシ。これが想定外に美味しく、心を満足させるものであったため、先ほどのダメージからあっさりと回復し、再び散策に出かけるのであった。しかし！ここでやっと気づく。今日は頼りの big tour bus は動いていないようだ。迂闊であった。48 時間有効だから、十分元が取れると思っていたのであるが、クリスマスはバスが止まってもおかしくはないのだ。どうやらかなり無駄な買い物をしたようだ。地下鉄も動いていないことは先ほど確認した。再び気落ちしつつ、それでも辺りを徘徊する。



(曇り空と動いていない観覧車)

歩き回って、Winter Wonderland という移動式と思われる遊園地のようなところに出くわす。稼働している様子もないが、やっとここでちらほらと人が歩いているのを確認する。出歩く人が少ないというだけで、完全に一人も外出していないわけがない。それにしても、ロンドンの冬は見事な曇り空である。



(街の様々なところにクリスマスの飾りが。)

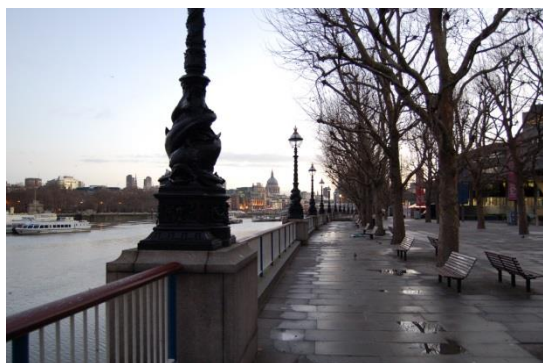
夕方から多くの人々を見かけた。せっかくのクリスマスイルミネーションを見ないのはもったいないだろう。17 時頃宿に戻る。体より心が疲れたので、早々にクリスマスディナーをいただいて寝る。

DAY4 (26DEC) ロンドン滞在

0530 起床。シャワーを浴び、身支度。

0630 行動開始。雨は降っていない。今日はクリスマスの翌日のロンドンを調査するために一日を使う。この日はボクシング・デーと呼ばれているらしい。当然のことながら格闘技のボクシングではない。教会が貧しい人のために寄付を募ったクリスマスプレゼントの箱を開ける日だったからだそうだ。旅をすると賢くなるものだ。さて、この日バスは普通に動いている。ロンドンのバスは便利で快適だ。まず臭くない。そして混んでない。さらに本数が多い。

早朝のテムズ川沿いを歩く。人が少ない。穏やかな曇り空。気分がいい。



(明けていくロンドン。濡れた歩道もいい。)

朝から夕方まで歩き回った。途中、某有名コーヒーショップに名誉挽回のチャンスを与えてやろうと、性懲りもなくラテに挑戦するが、まずい。もうこれは確定である。ロンドンのこの特定のコーヒーショップのラテはこういう味なのだ。もうわかった。他にもいいコーヒーショップはあるのだから、無理してこの店に行くことはない。予定外の結論が出たところで、クリスマスミールパッケージの最後の 1 食、ボクシングデーディナーを食べる。ローストビーフかな？うまい。鮭とブロッコリーのサラダ。うまい。歯ごたえのあるプディングいまいち。



(プディングは別として他はうまい。)

DAY5 (27DEC) エジンバラへ移動

0530 起床。身支度。1535 のフライトでエジンバラに行くのだが、そこまでの段取りを全く立てていなかったで、カフェで計画を立てる。

完璧かつ適当な計画を立てたので、部屋に戻り、パッキングをし、少し早いが空港へ向かう。ロンドンの空港はヒースローだけではなく、いくつもあるの、乗継などは要注意である。今回はスタンステッド空港を使う。地下鉄で空港までのバスが出ている駅まで行くと、幸い、バスに乗り込んですぐの出発だった。ふと見ると、近くの席に天使のように美しい女の子たちが座っているのに気づく。神々しいほどの美しさに圧倒されたが、ガン見しているのも失礼なので、気にしつつも見ないふりをしていたら、あっという間に空港についてしまった。わずかに聞こえてきた言葉から彼女たちがフランス人だとわかった。フランス語また勉強しなおしだなと小さく誓った。



(夕方のフライト。到着する頃は夜だ。)

チェックインした後、BK（バーガーキング）で腹を見たし、セキュリティチェックを通過して、フライトを待つ。フライト時間は約 1 時間半。1655 エジンバラ着。しかし、日はもう暮れて若干心細い感じになっていたが、そういうときこそ、勘は冴えわたる。なんとなく向かった先に市外へ向かうバス乗り場があった。Waverley という駅で降りるとそこが町の中心部だった。



（絶叫マシンを楽しんでいる人もいた。）

なぜか街の中心部に絶叫マシーンなどが置いてあり、派手に稼働していた。どそれらを横目に、頭の中に入れた地図を呼び出しながら今夜の宿への道を辿る。途中、なかなか味わいのある建物を見かけたが鑑賞している余裕などなく、宿への道を急いだ。見知らぬ土地に夜、到着するのはよろしくない。初めて冒険探検部で中国に行ったときのことを思い出す。もう日が暮れているのに、バスでとんでもなく郊外の宿に行く羽目になり、どんどん街の明かりから遠ざかり、街灯さえもないところへ向かう時の心細さはトラウマレベルの印象を残してくれた。そういうわけで、暗くなってから宿を搜索するのはできれば避けたい。

そんなことを考えているうちに、あっさり目的のエジンバラセントラルユースホステルに到着した。予想以上にきれいで快適なユースだ。

1830 チェックイン 77.9GBP/ 3 days
カフェも広いし、アラン島産のビールも置いてある。スタッフも気さくで、気分がいい。エジンバラの宿一押し認定である。しかし、エジンバラではこの宿にずっと滞在するわけではない。ホグマニーの関係で混んでいて、3日間しかキープできなかったのである。仕方なく、3日後には他の宿に移ることになる。



（ユースではあるが、全く文句のない快適さ。）

宿が決まれば、途端に元気になる。ユースで夕食を済ませ、街の探索に出かける。やはり、今はお祭り状態で屋台も多くでている。そうなのだ。これから、このエジンバラでは「エジンバラホグマニー」という年越し行事がおこなわれるのである。一般にヨーロッパではクリスマスに比べて年越しは特にイベントはないのだが、このエジンバラのホグマニーという行事はなかなか大きなイベントであるようだ。実はこの行事の一環であるストリートライブのチケットは既に入手してある。とにかく明日から街中を探索して回ることにする。その夜は、Mulled wine なるものを飲んでみた。日本で言えばホットワインである。

DAY6（28DEC）エジンバラ滞在

0920 あまりにも快適なベッドだったので、つい二度寝した。宿泊者は一人だけだったので、警戒心が薄れていたのだろう。朝食をとり探索へ。



1230 ツアーバスに乗り、市内の概要をつかむ。本当にこのツアーバスは便利である。観光地を網羅したうえで、乗り降り自由ときている。

1400 エジンバラ城見学。やはり、日本の城

とは堅牢さが違う。城内のひんやり感が城を実感させる。中世の鎧を着た人たちのアトラクションが楽しかった。2時間以上楽しんで移動。

1700 Scotch Whisky Experience

楽しみにしていたウィスキー博物館を訪れる。作り方を学ぶライドあり、テイastingあり、数えきれないほどの展示あり、バーありと、ウィスキー好きにはたまらない施設だった。



(両サイドにこのような棚がある展示室)
屋台のアンガスビーフバーガーで夕食。

DAY7 (29DEC) エジンバラ滞在

0530 起床。身支度をして、朝飯前の探索に出かける。1時間ほどして宿に戻り、朝食。すぐまた市内探索に出る。ツアーバスのチケットがまだ有効だったので活用する。ダイナミックアースという自然科学館に行く。大変興味深い場所で、地球の歴史などを学ぶ展示がよかった。



(Dynamic earth 外観も特徴的。)

1340 フランケンシュタインというパブで昼食。F&C、エールビールで 13GBP。

1425 National museum of Scotland



(館内のほんの一部。)



(自然科学系の展示も盛りだくさん。)

歴史あり、自然科学ありの大変興味深く快適な施設。展示物が多いのだが、建物が大きいこととセンスの良いディスプレイによりとても見やすくなっている。数日通って、じっくり見るべきものであるが、3時間くらいでどんどん見てしまった。もったいないことをしたかもしれない。こういう時である、勉強しなきゃなあと思うのは。テストのためでも何でもなく、ただ純粋に好奇心を満足させるための勉強。しているつもりだけど、学ぶことが多すぎる。

まだ 12 月 29 日である。これから、エジンバラホグマニーのメインイベントに入っていくのだが、Dynamic earth といい、National museum of Scotland といい、エジンバラは理科系の心をくすぐる見どころ満載の街だ。それだけではない。Scotch Whisky Experience も忘れてはいけな。もちろん、数々のパブも。次回はホグマニーの始まりを告げる松明行列への参加、年越しライブなどの話である。

(つづく)